

PWDとは？ 医療学のすすめ



大阪府医師会理事
細井 雅之

PWD：Person With DiabetesからPerson With Disease

私が大阪府医師会に関わるお仕事をさせていただいたのは、「大阪糖尿病対策推進会議」の委員として、「世界糖尿病デー」や「糖尿病性腎症重症化予防事業」に従事したのがきっかけでした。近年、糖尿病専門医には、「PWD Person With Diabetes：糖尿病のある人」という考えが要求されています。人を第一にすることによって、病気（糖尿病）によって人が定義（diabetic patient）されるのではなく、まず、人が存在しその状況の一つとして糖尿病があることを示すものです。すなわち人を中心に据えた糖尿病ケアが求められています。PWDと医療者がコラボレーションし、糖尿病を持つ人生の課題への取り組みが少しでも容易になることを目標とする「糖尿病医療学学会」も設立されています。「医療学」とは、医学として科学と技術で病気を「cure（キュア）」するだけでなく、病気がある人（PWD）にアート（術、技）で「care（ケア）」をする学問です。病気がある人の考えと気持ちを医療者が理解・共有し、適切な支援を行う（Person-centered Care）ことが求められています。

この考えは、すべての慢性疾患に当てはまるものと思っています（図）。すなわち、PWDは「Person With Disease：病気や疾患を持つ人」でもあると考

えています。糖尿病医療学学会では最近、「がんの医療学」のワークショップも行われています。慢性疾患がある人を中心にケアをする態度が、我々全医療人に求められると思っています。

では、具体的にどのようにPWDを考えてケアしていくべきでしょうか？

糖尿病医療学を確立された石井均先生は「糖尿病医療学入門：こころと行動のガイドブック」(医学書院〈2011〉249ページ)の中で、以下のように書かれています。

- ・患者さんが行動を変えていくためには、強固な信頼関係を築くことが最も重要です。あなたのことを、信頼できる人、自分を傷つけない人、そして強い信念をもった人と思えた時、患者さんは変わります。そういう関係ができたとき、よく聴く耳と、叱らないで怒らないでケアをしていくセンスとをもちながら、あなたの考えをしっかりと話しましょう。
- ・まず最初に「関心事は何ですか」と尋ねましょう。その答えに沿って診察時間を使いましょう。
- ・患者さんは医師との関係を求めています。医師がどう感じているかが大切なのです。それは診察時間の長さの問題ではありません。その時間の中での医師の態度が問題なのです。

まず、PWDと医療者の関係性を重視されています。

私の恩師の佐藤利彦先生は、ご著書「Dr.サトーの糖尿病療養指導心得7カ条」(メディカ出版〈2018〉)の中で、以下のようにおっしゃっていました。

- 「100点だけの人生はありえない。人生いろいろ」「やる気のない患者さん」ではなく、「やる気がないように見えて、やりにくそうに見える患者さん」と考えるべし「患者さんにいうことをきかせる」前に、「患者さんのいうことを聞くべし」
1. 患者さんの抱えている本当のイメージを患者さんの言葉で探り出すべし
 2. 家庭でのサポート環境を整えるべし
 3. 家族に「傾聴」「受容」を伝授し、患者さんと主に新しい習慣をつくるよう指導すべし
 4. 習慣を「変える」ではなく、「新しく作る」べし

これらは、PWD慢性疾患を持つ人すべてに当てはまることと考えています。大阪府医師会の諸先生のご参考になれば幸いです。

医療学の概念図

第9版 糖尿病専門医研修ガイドブックp532(石井均先生),2023年を著者改変

